

付録 9 処理結果電文  
(INQ 型電文/EXZ 型電文/EXC 型電文)  
の宛先管理の具体例

# 付録 9 処理結果電文（INQ 型電文/EXZ 型電文/EXC 型電文）の宛先管理の具体例

## 1. データ送受信処理方式ごとの宛先管理のパターンについて

NACCS では、利用者のデータ送受信処理方式に応じた宛先管理の設定を行うことができる。付表 9-1 にデータ送受信処理方式ごとの宛先管理のパターンを示す。

~~なお~~ 処理結果電文（帳票）を特定の宛先に出力する場合は、出力情報コード単位に、下表に記述した宛先へ振り分けることができる。全ての処理結果電文（帳票）を特定の宛先に出力したい場合は、出力情報コードにバスケットコード「999999」を指定する。

なお、入力元がメール処理方式、かつ、入力者向けの帳票電文（INQ 型/EXZ 型）の場合で、全ての帳票電文を特定の宛先（パッケージソフトに限る）に出力したい場合は、出力情報コードにバスケットコード「888888」を指定する。

また、「出力パターン」欄に記入されている付図 9-1～付図 9-7 に宛先管理のパターンごとの設定例を示す。

付表 9-1 データ送受信処理方式ごとの宛先管理のパターン

データ送受信処理方式	利用者システム形態	シングルサインオン	出力パターン				許可通知二重出力 (注 1)	
			INQ 型	EXZ 型	EXC 型 (注 3)			
					送信先種別			
					利用者向け (QEX)	論理端末向け (QST)		メールボックス向け (MAIL)
インタラクティブ処理方式	パッケージソフト (インタラクティブ) / パッケージソフト (netNACCS)	有	自端末 (EXZ 型の場合は当初業務実施端末) に出力されるため宛先を設定する必要は無い	出力先利用者コード/出力先システム形態 [付図 9-1]	出力端末名 [付図 9-2]		[付図 9-5] (注 2)	
	SMP 双方向 (ゲートウェイコンピュータ) / ebMS 処理方式 (ゲートウェイコンピュータ)			出力先利用者コード/出力先システム形態 [付図 9-3]	出力端末名/出力先利用者コード/出力先システム形態 [付図 9-4]			
メール処理方式	ゲートウェイコンピュータ	有				メールボックス ID/サーバ種別 [付図 9-7]	付図 9-5 に同じ	
		無	メールボックス ID/出力端末名 (注 4) /サーバ種別 [付図 9-6-1] [付図 9-6-2]					

(注 1) インタラクティブ処理方式 (SMTP 双方向) / メール処理方式 (ゲートウェイコンピュータ) 利用者の場合のみ、二重出力が可能である。

(注 2) 許可通知二重出力の場合の設定項目についてはそれぞれの付図を参照すること。

(注 3) WebNACCS 処理方式のみを利用する利用者への EXC 電文出力は業務処理にてエラーとする。

(注4) 帳票電文の場合のみ、出力端末名 (パッケージソフトに限る) の指定が可能である。

パターンごとの設定項目の詳細については、オンラインメンテナンス業務の「業務仕様書」を参照すること。

! サーバ種別とは、出力先のサーバの種別のことである。処理結果電文 (帳票) の宛先のサーバを決定するために使用する。以下のいずれかを設定する。

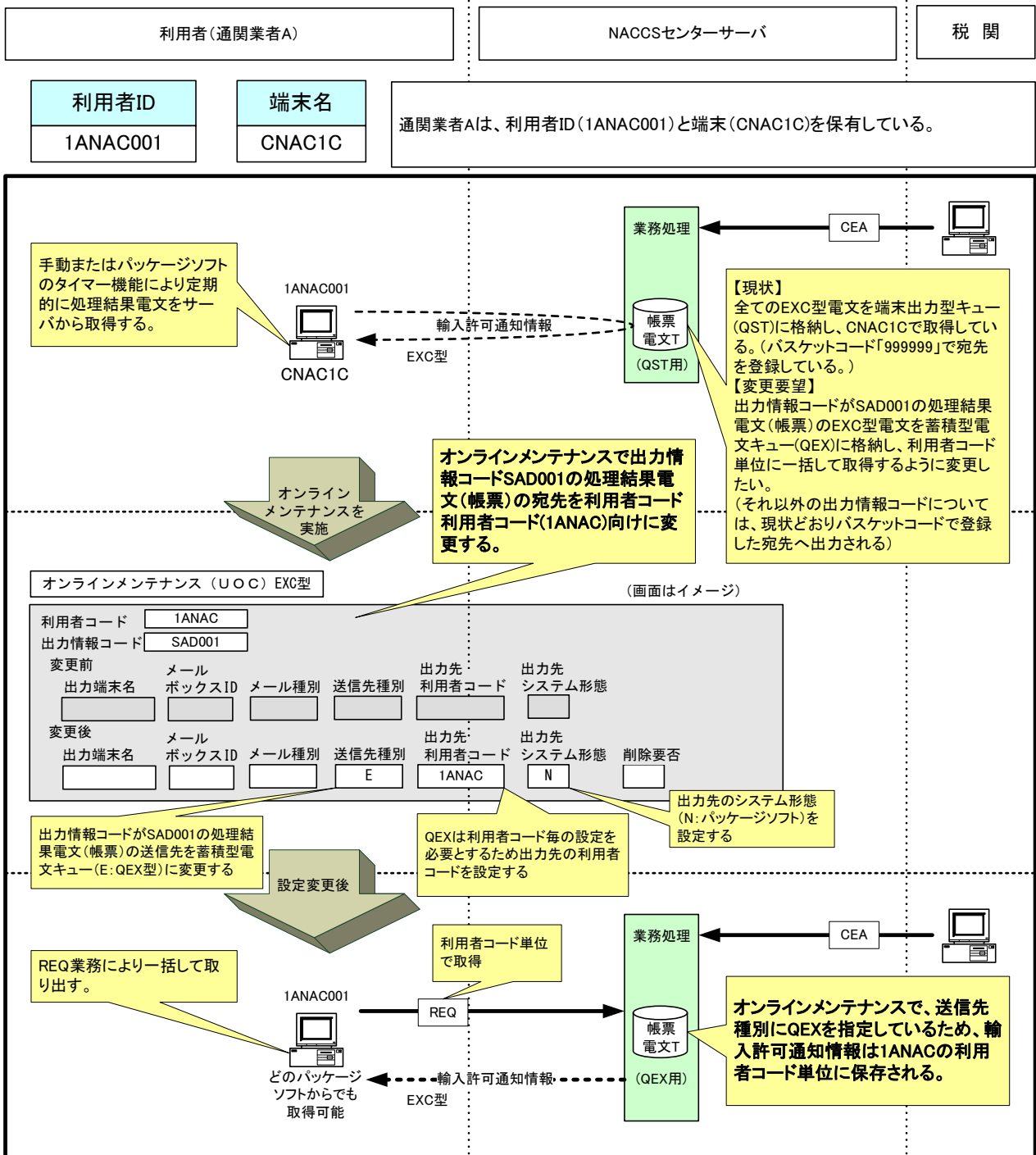
M:メール、E:EDIFACT (注45)、I:インタラクティブ (パッケージソフト)

! 出力先システム形態とは、出力先のシステム形態のことである。処理結果電文 (帳票) を出力する宛先を決定するために使用する。以下のいずれかを設定する。

Y:SMTP双方向、N:パッケージソフト、V: ebMS処理方式

(注45) EDIFACT は対象出力情報コードが限定されているため、出力情報コードにバスケットコード「999999」を指定する場合、サーバ種別にはMを設定すること。(EDIFACT の場合は個別の出力情報コードごとに宛先管理設定を行うこと)

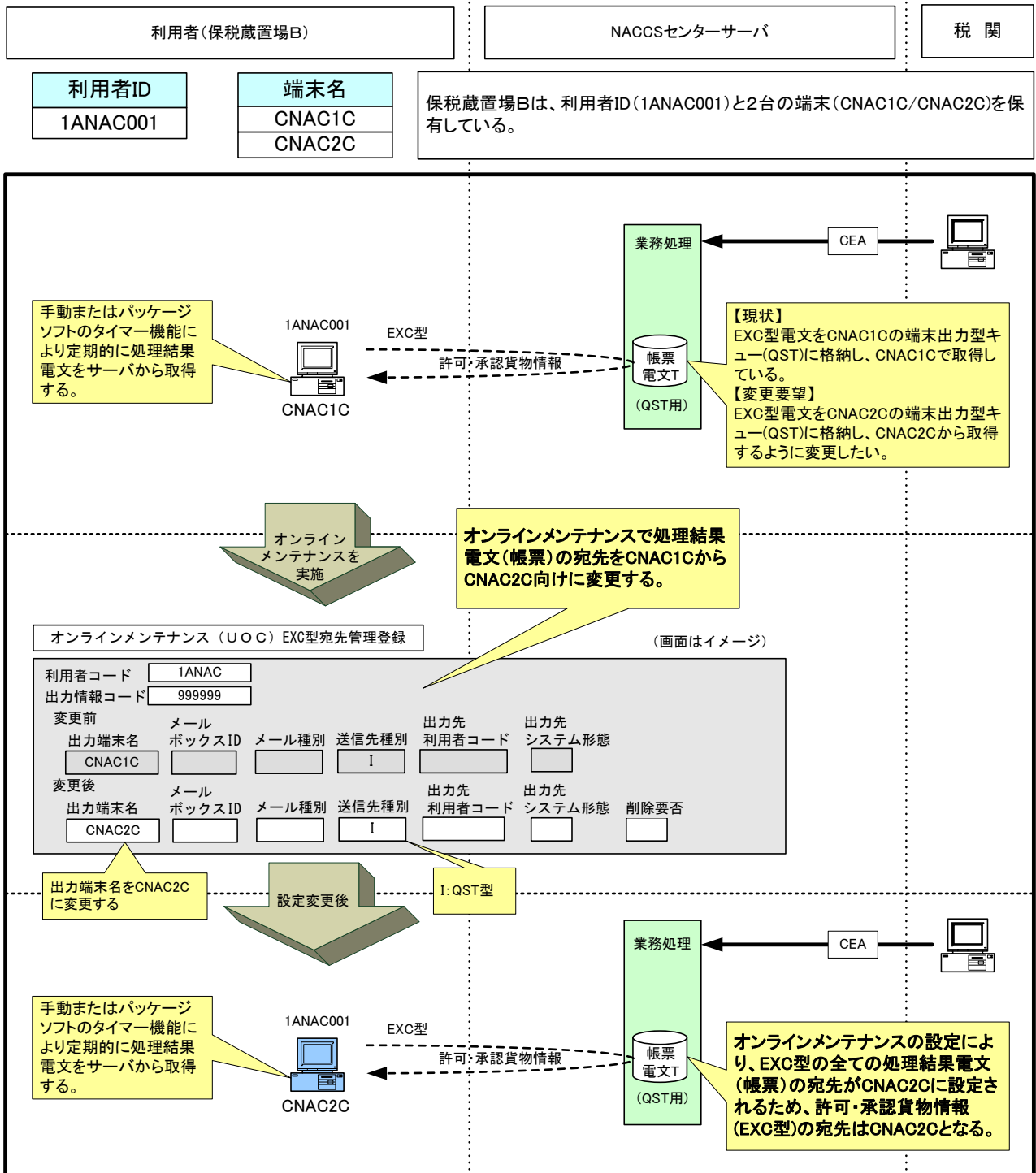
# 処理結果電文(帳票)の宛先を論理端末向けから利用者コード向けに変更する設定例



付図 9-1 EXC 型の情報の宛先を利用者コード単位にする設定例

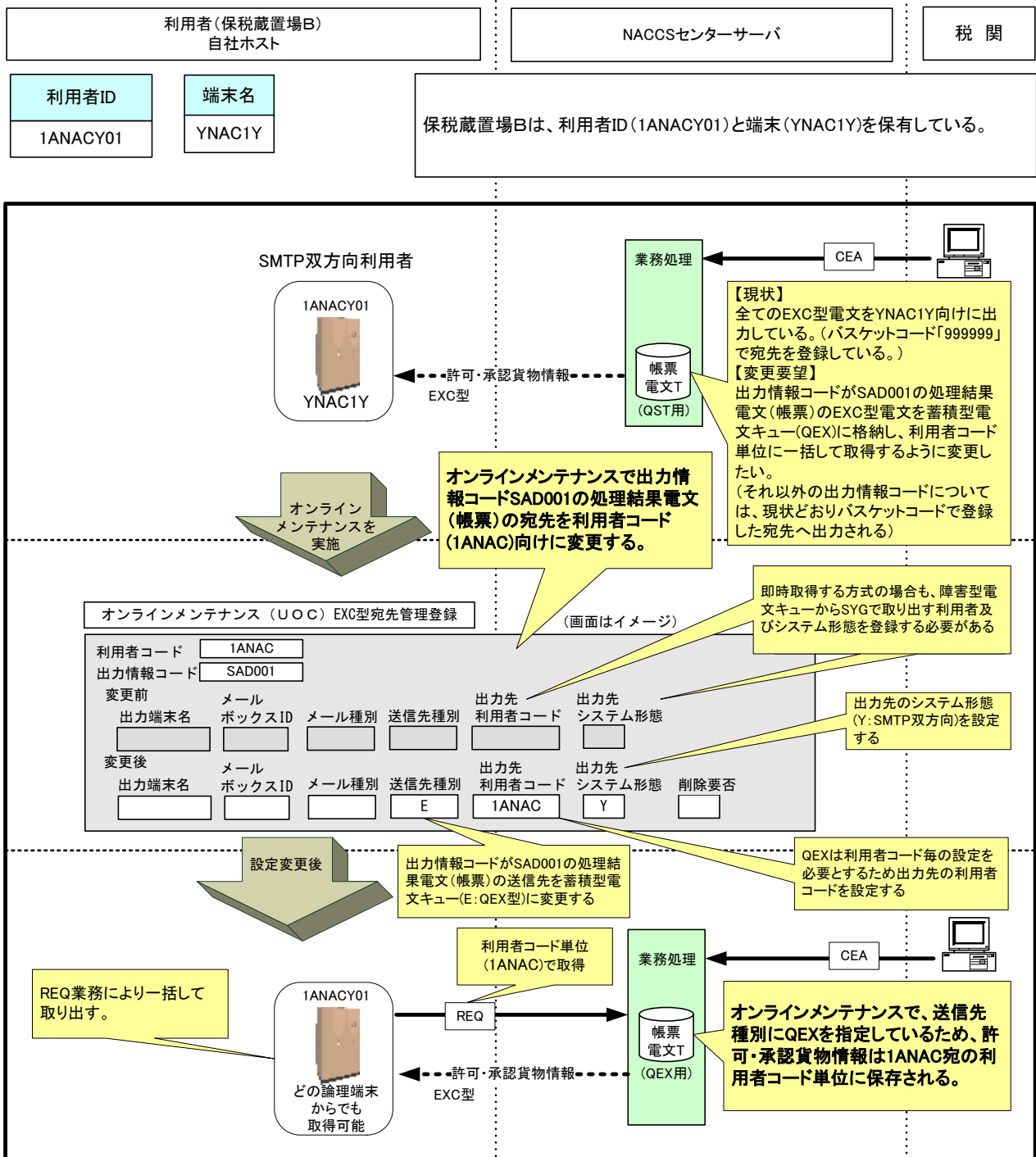
！ オンラインメンテナンス業務で登録した出力先の利用者コードと一致する利用者コードであり、かつ、システム形態(SMTP、パッケージソフト)が一致する利用者IDからのみREQ業務で処理結果電文(帳票)を取り出すことができる。

# 処理結果電文(帳票)の宛先を特定の論理端末から別の論理端末に変更する設定例



付図 9-2 EXC 型の情報の宛先を特定の端末にする設定例

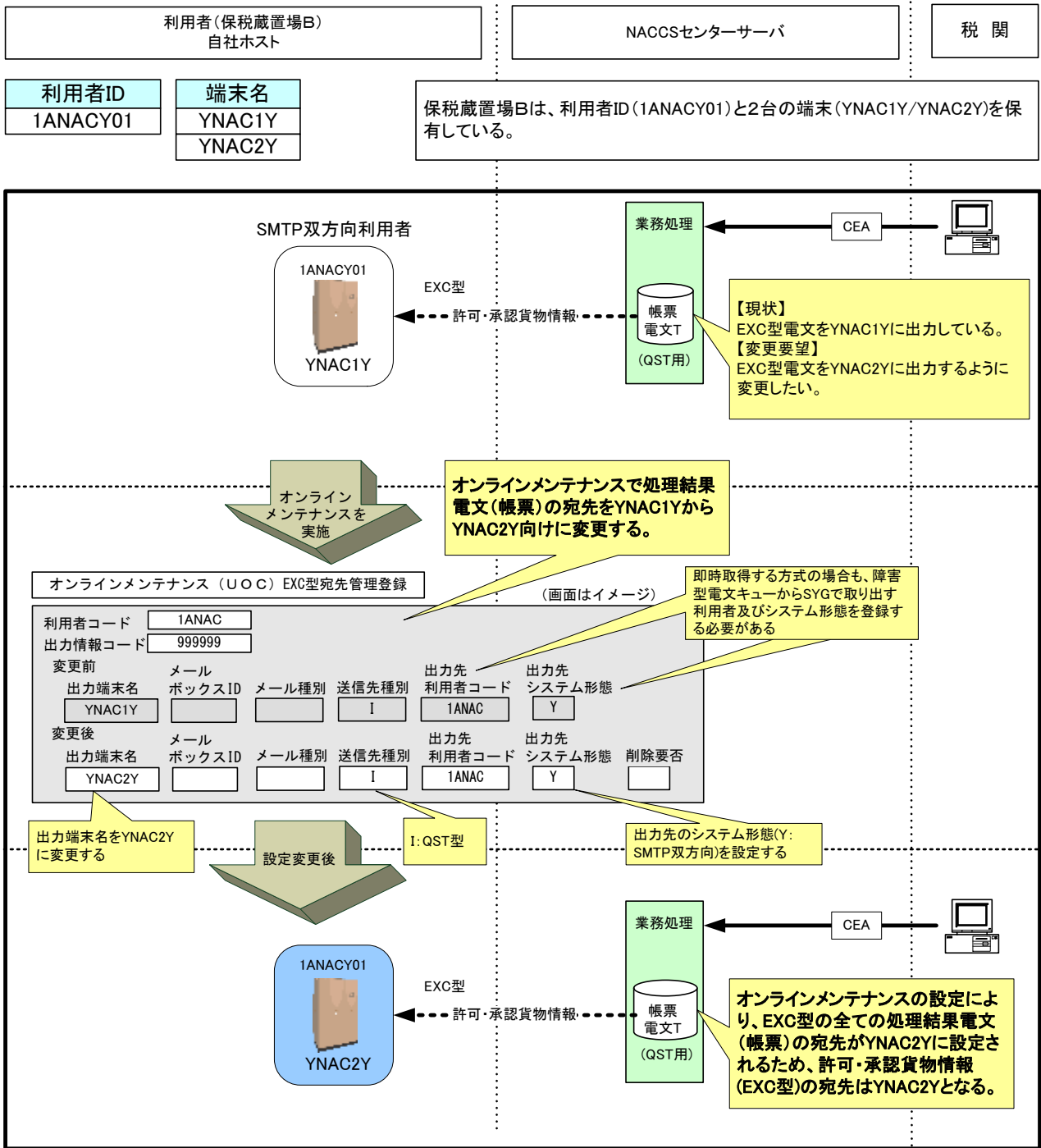
処理結果電文(帳票)の宛先をSMTP双方向利用者の論理端末向けから利用者コード向けに変更する設定例



付図 9-3 EXC 型の情報の宛先をインタラクティブ処理方式 (SMTP 双方向) 利用者単位にする設定

❗ 出力先利用者コードに登録した利用者コードと一致する利用者コードであり、かつ、出力先システム形態(SMTP, パッケージソフト)が一致する利用者IDからのみREQ業務で処理結果電文(帳票)を取り出すことができる。

処理結果電文(帳票)の宛先を特定のSMTP双方向利用者の論理端末から別の論理端末に変更する設定例

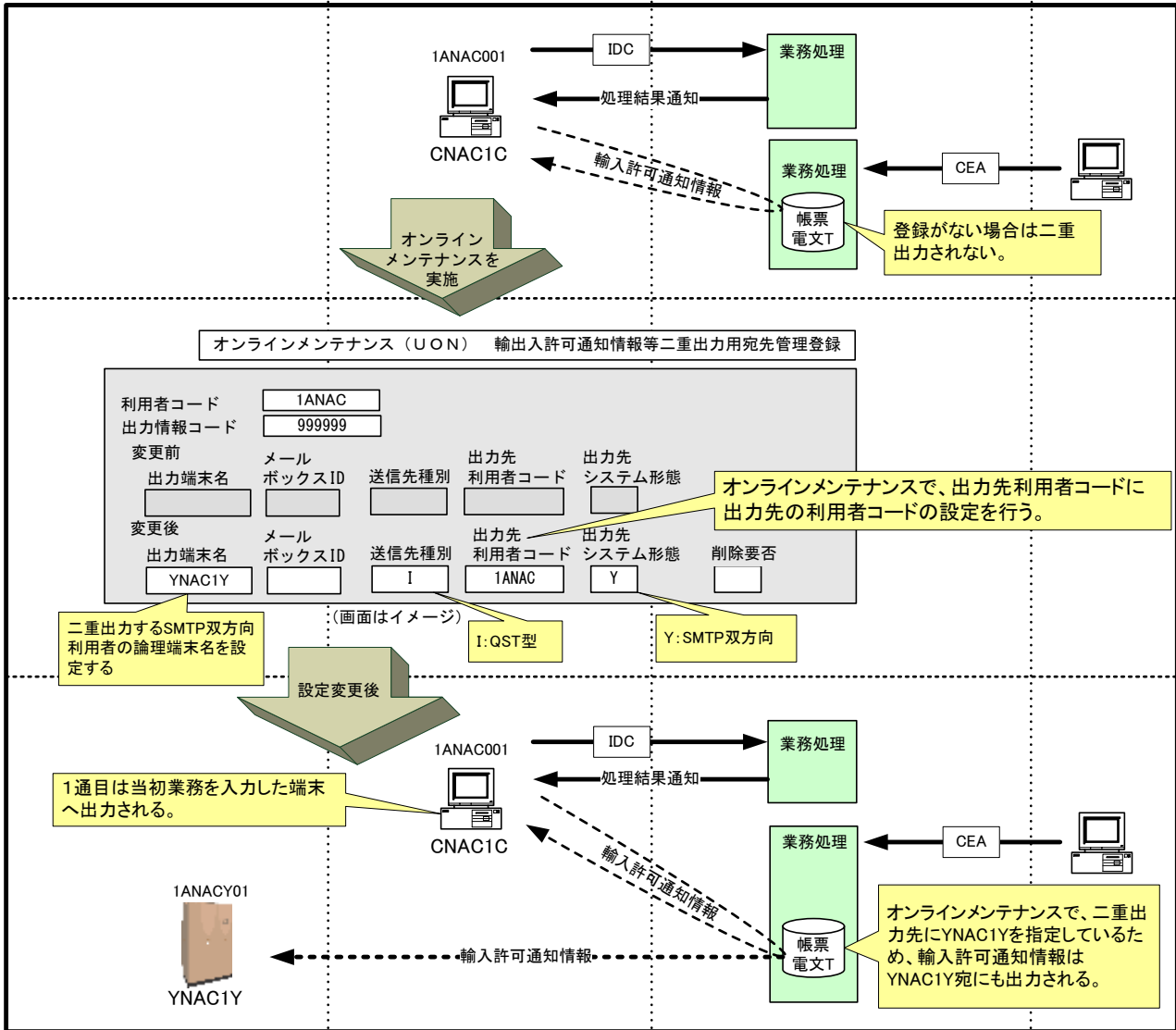


付図 9-4 EXC 型の情報の宛先をインタラクティブ処理方式 (SMTP 双方向) 利用者の特定の端末にする設定例

SMTP双方向利用者端末を処理結果電文(帳票)の二重出力先にする設定例

利用者 (通関業者A 営業所X) 自社ホスト	利用者 (通関業者A 営業所Y) パッケージソフト	NACCSセンターサーバ	税関
利用者ID 1ANACY01	端末名 YNAC1Y	利用者ID 1ANAC001	端末名 CNAC1C

通関業者Aは、営業所XではSMTP双方向の利用者ID(1ANACY01)と端末(YNAC1Y)、営業所Yではパッケージソフト利用者(1ANAC001)と端末(CNAC1C)を設置している。



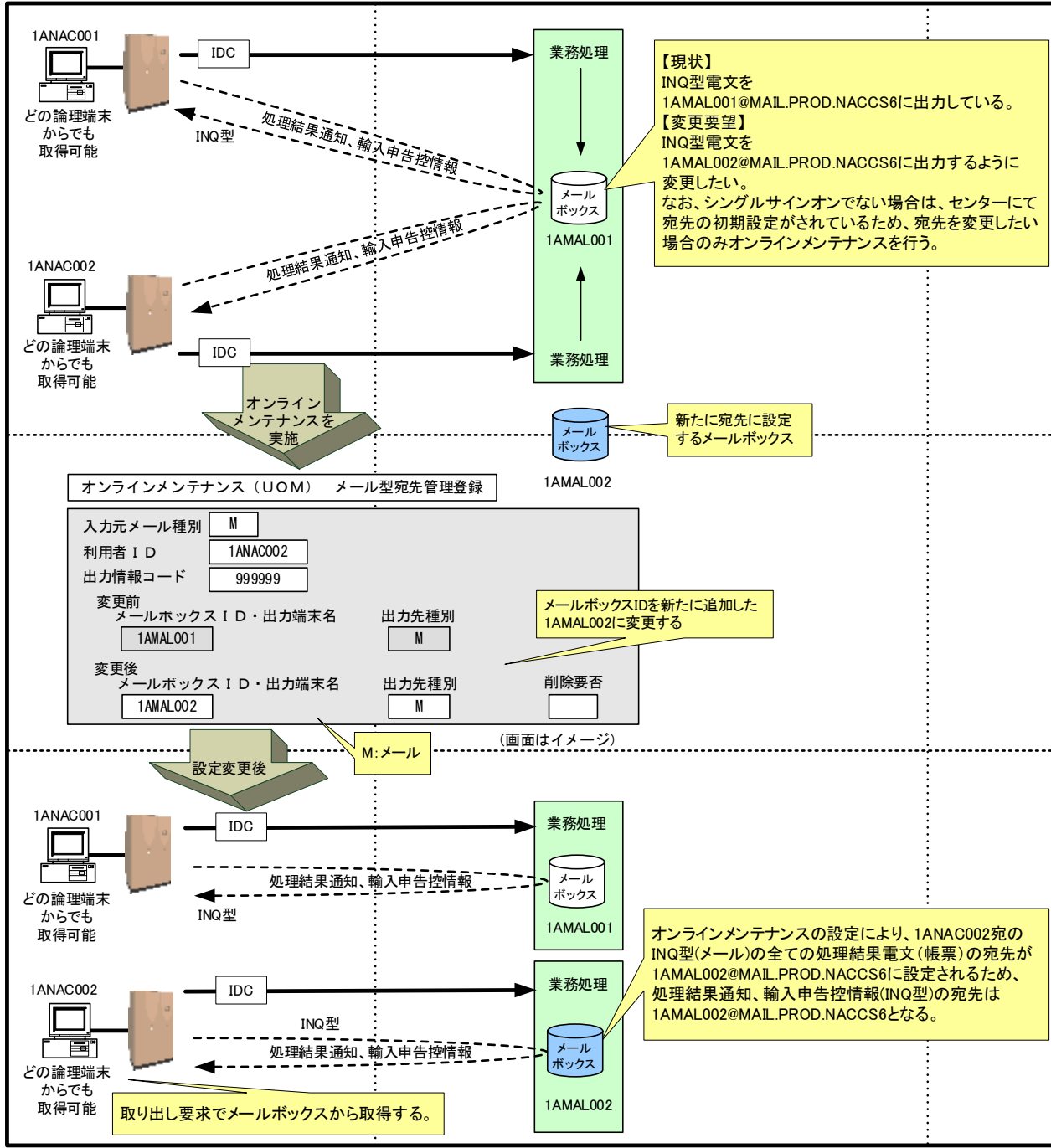
付図 9-5 二重出力する情報の宛先をインタラクティブ処理方式 (SMTP 双方向) 利用者の端末にする設定例

! 二重出力の宛先については、特定の端末、利用者コード及びメールボックス宛に設定することが可能である。



シングルサインオンでない場合で、メールボックスを新たに追加して、処理結果電文(帳票)(INQ型)の宛先を新たに追加したメールボックスに変更する場合の設定例

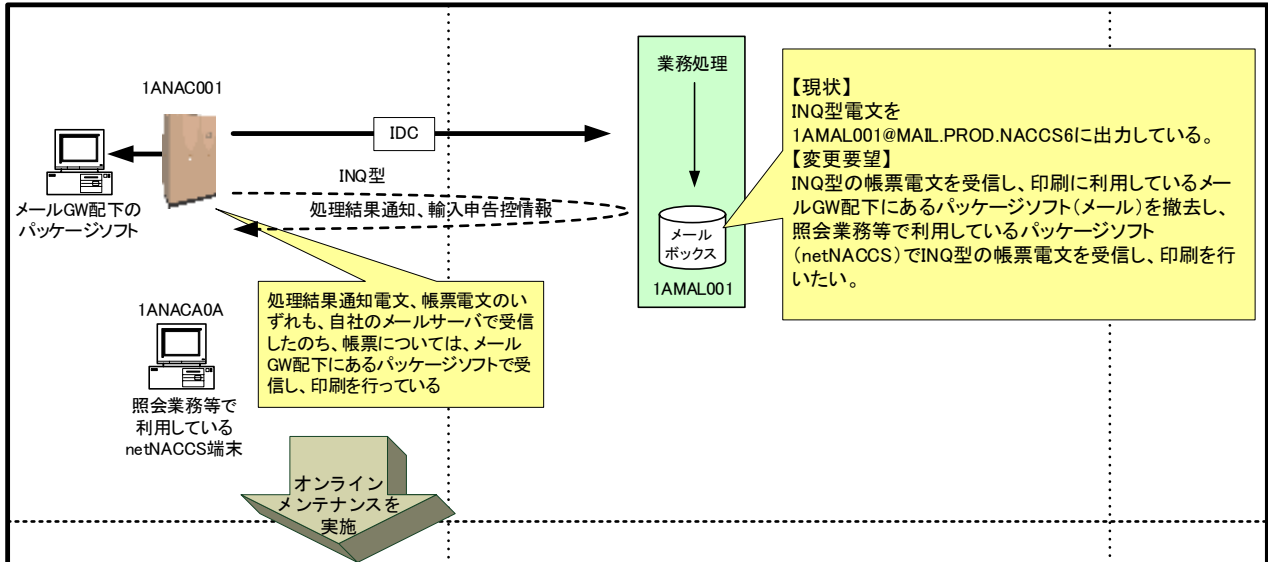
利用者(A事業所)		NACCSセンターサーバ		税関
利用者ID	メールボックス	端末名	A事業所は、2つの利用者ID(1ANAC001/1ANAC002)を保持している。メールボックスについては、シングルサインオンは利用せずに1つのメールボックス(1AMAL001)を共有で利用している。メールボックス(1AMAL002)を新たに追加して、利用者IDが1ANAC002の処理結果電文(帳票)の宛先をメールボックス(1AMAL002)に出力するようにする場合の設定例。	
1ANAC001	1AMAL001	MNAC1M		
1ANAC002	1AMAL002	MMAL2M		



付図 9-6-1 メール処理方式 (シングルサインオンでない場合) における INQ 型の宛先管理の設定例

入力元がメール処理方式である場合に、帳票電文(INQ型/EXZ型)の宛先をパッケージソフトに変更する場合の設定例

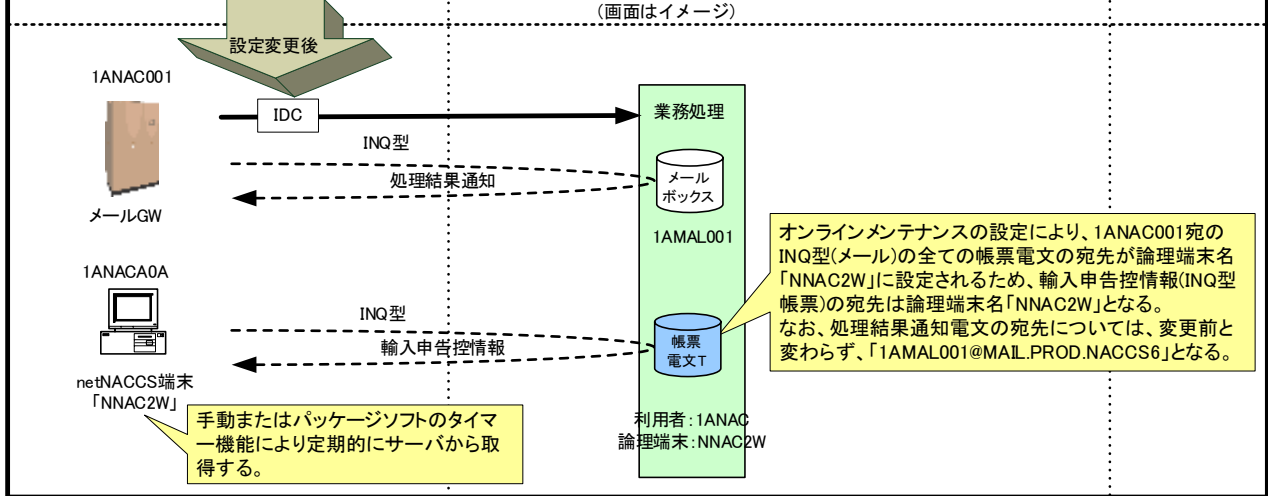
利用者(A事業所)		NACCSセンターサーバ		税関
利用者ID	メールボックス	端末名	メール処理方式の自社システムにおいて、INQ型/EXZ型の帳票電文をパッケージソフト(インタラクティブ/netNACCS)で受信する場合の設定例。	
1ANAC001	1AMAL001	MNAC1M		
1ANACA0A	-	NNAC2W		



オンラインメンテナンス (UOM) メール型宛先管理登録

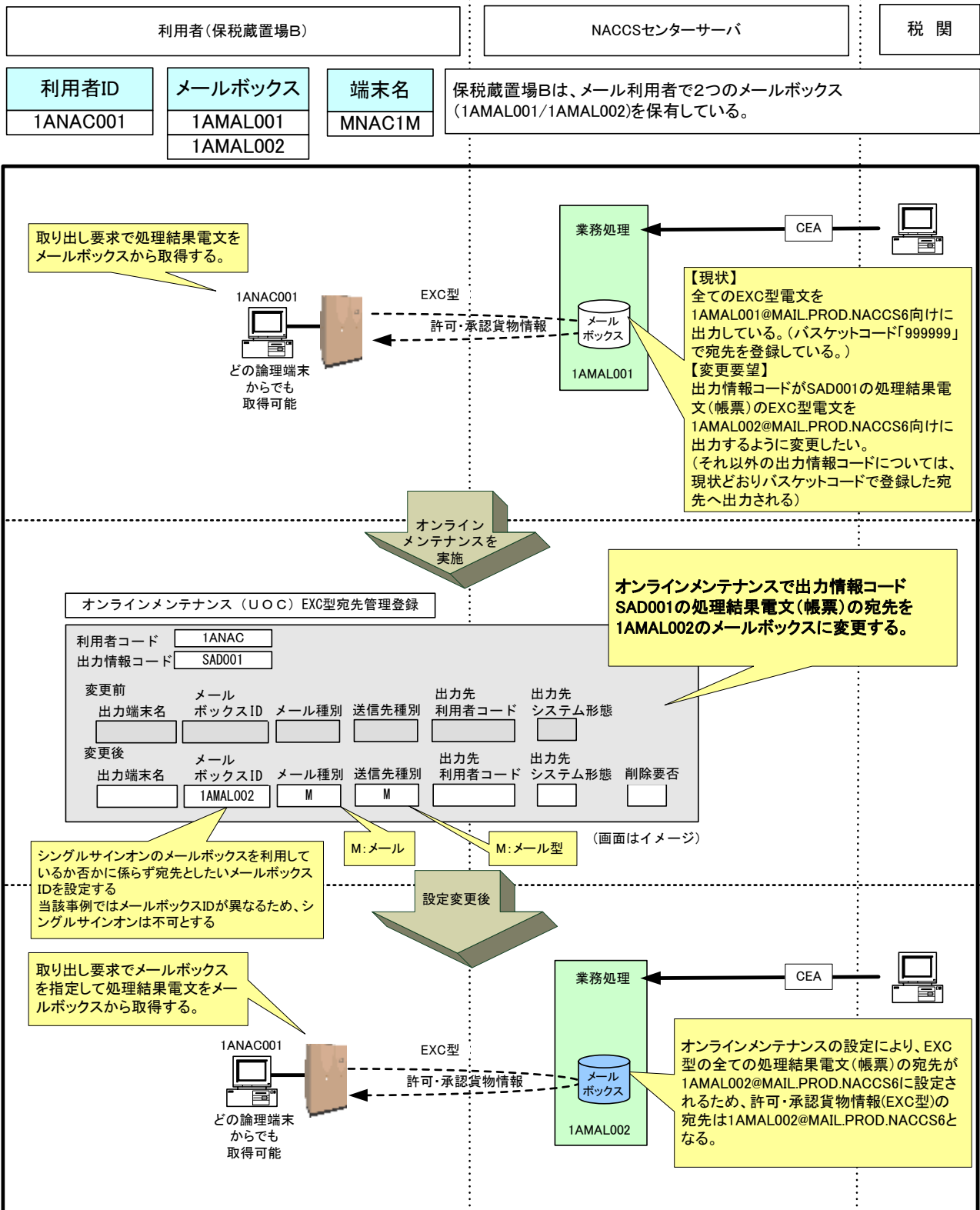
入力元メール種別	M		
利用者ID	1ANAC001		
出力情報コード	888888		
変更前	メールボックスID・出力端末名	出力先種別	
変更後	メールボックスID・出力端末名	出力先種別	削除要否
	NNAC2W	I	

出力情報コードに帳票専用のバスケットコード「888888」を設定し、メールボックスID・出力端末名にパッケージソフトの出力端末名を設定する。



付図 9-6-2 メール処理方式における INQ 型の宛先管理の設定例

# 処理結果電文(帳票)の宛先を特定のメールボックスから別のメールボックスに変更する設定例



付図 9-7 EXC 型の情報の宛先をメールボックスにする設定例